



竹

へ5
1935

へ5
1935

宗祇法師松傳之書

あ



名才ナノハナのシしシのシしシのシしシ
 月ツキ松マツ枕マクラ七ナナ句クのノ夕ユフ夕ユフ夕ユフ
 ねネ年ネン疑イ字ジ極キョク細ホソ衣イ袂タテのノ動ウツクシこコ如ニ
 浦ウラ山ヤマのノ空カラをヲ立タツツツのノ下シタをヲまマよヨ
 述シユツ懐クワイやヤ神カミ祇ヒメ杖ツヅ教キョウ色シキをヲ常トコロ
 五イチのノ中ナカとトいイつツらラのノ心ココロ
 三サンのノ門カドのノ下シタにニ酒サケのノ海ウミのノ様サマのノ心ココロ

さてハ草一本の中とこもこも
日次ハ八月とくろり田舎書
竹小若木ハ二句さらよ一
暑まハかきとまう蟻よまそとま又
露まむらろをの月
後前乃世ハつらりさの世也
代に代はなして年世君の世也

嶽カキちろとこおむとくよまがれ花
梅ハ二本君ハ一本かき
とろくき鬼クニやとんおハ百約イニや
十句の中ハ二句をそましく
秋まよ町チゆニわらまらあうき
雨ハてさしとそてハひらぬサメ
嶺キシやヲカ思ヲカろろヲカ馬ヲカ上のフモト舞フモト坂

谷崎山乃山嶽と狝たり
枳カキや澁シキと柘シロ木も用るまじし
洞ホラすりこりゆりともおき用たり
海ウミや浦ウラ入口澁シロのほくこし由
江エと磯イソも津ツキと狝シロたり
干涸カガより澁シロと河カハし岸キサもつてえ
池イケと泉イヅミも澁シロと狝シロたり

くが波ナミ塩シホと水ミヅも用されし
水ミヅとつひとほく用たり
こきよみイカダ筏イカダや子コおきオキと
海ウミと塩シホをカ狝シロ用ヨウなり
赤アカ摩マみミつツわワめメらラ紀キ菜サイしシなナ菜サイ
美ミ也ヤとトらラすスも狝シロ用ヨウのノやヤ
釣ツリこコりリ莫ムカ細ホソ也ヤ家カもモあアらラひヒとトふ

三
真とむり神用方ゆ

軒^キや麻里^{トコ}門^{カド}窓^{マド}と窓^{マド}の戸^{カド}も

扉^{カド}卷^{マク}とむり神^{カミ}たり

の^ノ富^{トモ}と垣^{カキ}も隣^{トナリ}と壁^{カベ}までと

尊^{ミコト}もあや神^{カミ}とこそさけ

徳^{トク}家^ケや山^{ヤマ}石^{イシ}倉^{クラ}用^{ヨウ}の戸^{カド}すそりも

すそりも井^イと居^イ家^ケの二^ニの^ノ橋^{ハシ}も也

父母^{フボ}の力^{チカラ}の^ノ我^ガの^ノ我^ガと人^{ヒト}

廟^{ミヤ}寺^ジ田^タの^ノ人^{ヒト}輪^{リン}も也

水^{ミヅ}の^ノ心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も

心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も

涙^{ナミダ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も

心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も

老^{オシロイ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も心^{ココロ}も

辭小園ヤニにわすし事なり

吹フク風カゼきくしうらむれんも

山乃名るし又とせし事

こせむふはののユキ雪ユキあはれ

うたひはしきしうらむ事

草枕クサマくらすきそへ花乃くさし枕

懐紙クハシとくそ又とせし事

ひらりヒラリ花ハナをそへハ穂ホ覆フクる事

むらりムラリとなるとふとせし事

うらりウラリもとガそスキ枕マくらも袖カのカあハ

いられもききし物なり

うらりウラリ物モノは物モノなくして月ツキなり

うらりウラリしキせし事

友トモ皮カ平ヒラや梅ウメ評ヒラ梨ナシ争マカひあり

立

四

何くもたるくいまよあすわ
 花と来月と交る山姫や
 来むとあき人備のやり
 猿二のちちも二のすりされ
 梅もりのつらぐれあすれ梅
 鶯の袖れもまよあすれ
 子名りの流もまよあすれ

星流の濱もあすれ
 秋もあすれ
 極物よまき田や守田極田とそ
 教よ若の女にさくら
 来くあすれ
 かろくあすれ
 来あすれ

野のあけとやもあし
 降雪ハ懐紙カワイコ一よひのなり
 白のよしとらにゆせ物乃雪
 年一白の速懐ニユツクウイ一りせせしむ
 心ココロのしりして歳セイ善イボある下
 幸トウキふふの信チカを結キムラふもあまきこ
 後ノチよしつゝもいふく言コトハ

代ヨの世の字ジあまのア一ハ月ツキ
 又マタの字ジもあまのア一ハ月ツキ
 鳥羽ウツタの夜ヨよふなと付ツキもや
 窓マドもも戸カドをた結キムラあまのア一ハ月ツキ
 寝ネえよハ松マツのりくも甘アマえれん
 御ミコトよあまのりくはくく
 松風乃里よあまの松マツあま

よき義の田舎も極妙のゆり
いに付し付て打つ了くおれと
教字の教字の付人さ
花の山として様よふもあ
志美乃山つえよせの様より
野のまはれ振より侍流の海
まじけのまはれ林の極なり

梅のり花咲実なり和装の
くれの井さそとくもあつ梅
月を友花とあそとく人々
人備りぬやがりり
おと宿月試宿とて他人
香不よあつらつりたり
月の宿花の宿とてあつら

香^{キヨ}不^{シヨ}乃^ノる^ルす^スふ^フさ^サめ^メる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
洋^{キヨ}押^ツも^モる^ルく^クも^モる^ルく^クも^モる^ル後^ノに^ニも^モる^ル
用^{ヨウ}さ^サり^リの^ノり^リ乃^ノの^ノ神^{カミ}も^モ本^ホす^スと
途^チへ^ヘと^トも^モさ^サせ^セし^シも^モう^ウれ^レに^ニも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
本^ホ下^カに^ニほ^ホと^トあ^アり^リの^ノり^リと^トも^モる^ル
名^ナの^ノり^リも^モ無^ム名^ナの^ノり^リも^モと^トも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
申^{マカ}れ^レ外^{ガイ}の^ノり^リも^モう^ウれ^レに^ニも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
は^ハ道^{ミチ}に^ニ演^{エン}乃^ノの^ノり^リも^モと^トも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
不^フ審^{シン}れ^レぬ^ヌの^ノり^リも^モと^トも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
此^{コノ}方^{カタ}も^モ演^{エン}ま^マす^スん^ンゆ^ユ決^{ケツ}と^トも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}
座^ザの^ノ勘^{カン}終^{シュウ}り^リも^モ可^カし^シは^ハ之^ノ也^{ナリ}
新^{シン}式^{シキ}之^ノ方^{カタ}他^タ者^ノ宗^{シュウ}社^{シャ}云^{クモ}々^々の^ノり^リ
氏^{ウヂ}部^ベ入^イる^ルの^ノり^リも^モと^トも^モる^ル婦^メ子^コ一^{キヲ}

上吉中吉道代花はし不_レを_レ
之_レ然者自一象殿沙書出_レは_レ
者也十四十七_レ道_レと_レし_レ
御_レの_レ花_レの_レ可_レに_レ散_レと_レ也_レ
實_レ之_レ

十二月花名考 定家曰

春三月柳_レの_レ花_レの_レ花_レ
く_レく_レと_レ雉_レ子_レの_レ花_レの_レ花_レ
夏三月卯_レの_レ花_レの_レ花_レ
山_レの_レ花_レの_レ花_レ
秋三月卯_レの_レ花_レの_レ花_レ
か_レき_レの_レ花_レの_レ花_レ

連珠付合物若

すじはよるへ

花すまき スミキ せりたて

いそ ヤケ 焼野 ノ 為 ノ 本すま

かや ノ 薄すくろ ノ 薄初すま

ますとの薄

9 匠 大裏 あり

神ツろく

カモ 雲カスミの神 明カうて

すさの神 ま袖 お花の神

うさぎの神 め井すりれうて

花すりの神 月の神くされ神

衣ユの神 めきの神 ほ花のうて

さきれ神 墨スミ深ソコの神うりれ神

の神 さしけの神 かりさぬの神

かみの神 くれき井の神 めちれ神

名ナ流リウの神 じうじの神

竹タケ

くれ竹 あよ竹 石竹いしじ竹

竹タケさ 竹のあき戸 竹たけけいひ

竹のたけ 雪ゆきよれの竹 竹のたける

鏡カミ多タ

ありひとまます鏡カミ鏡カミのちり

水ミヅのみ 飛カミ見ミの鏡 雪ユキれ鏡カミ

つ山ヤマの鏡 竹タケの鏡 月ツキの鏡

つと山ヤマの川 球ユキれ鏡カミの多タ

玉タマ鏡 野ノとりの鏡

鏡カミ多タ

糸イト鏡カミのそりソリ 家イヘとトりリ

ひヒとトりリ 山ヤマとトりリ ねネとトりリ

雲クモ深フカ鏡カミのそりソリ 田イデとトりリ

さサとトりリ 谷ヤとトりリ 庭ニハとトりリ

一ヒトとトりリ 鏡カミのそりソリ 庭ニハとトりリ

楊ヤウ梅バイ 楊ヤウ子シとトりリ 梅バイのそりソリ

さサとトりリ 多タとトりリ 枝エダ

松うら

唐松 一夜松 一本のまつ

松ま 松の松 松の松

松の松 箱崎の松 松の松

松の松 松の松 松の松

松の松 松の松 松の松

松の松 松の松 松の松

松の松 松の松 松の松

松の松 松の松 松の松

松多

松の松 松の松 松の松

松の松 松の松 松の松

松の松

松の松

ゆすけ しんせき 小菅コサガ

菅束スガ しばき ちんせきチンセキ

ちんせきチンセキ

一重衣イツヘウイ ちのころチノコロ ちんせきチンセキ

麻衣アサイ ちのころチノコロ ちんせきチンセキ

襦衣ジュイ 襦衣ジュイ ちのころチノコロ

ちんせきチンセキ ちのころチノコロ

枕マクら

手枕テマクら 袖ソデ まくらマクラ こころココロ ゆくらユクラ

かみ枕カミマクら 碓枕ヱマクら 葛蒲枕カヤハシマクら

すく枕スクマクら 松マツ の根ネ まくらマクラ 枕マクら ちんせきチンセキ

草枕クサマクら 浪枕ナミマクら 爰ココ 妙タカ の枕マクら ひき枕ヒキマクら

さくサク ゆくらユクラ

永トキ ちんせきチンセキ

蜜小瓶
はるみ
おとし
おみ

す瓶
桐葉小瓶
多瓶

かし小瓶
わし小瓶
粉小瓶

紅葉瓶
木葉小瓶
桜小瓶

くし小瓶
草瓶
紫小瓶

うし小瓶
衣小瓶
入瓶

おみ
おみ
おみ

おみ

おみ

田小瓶
こ小瓶
根小瓶

おみ
おみ

おみ

寺井
右井
あつ井

井
井

六

櫛多々ツギナ

軒ツギナの櫛ツギナ 庭ニ乃櫛ツギナ 花ツギナとらつか

奇ツギナ地ツギナとらつか雪

櫛ツギナりらツギナく

玉ツギナ椿ツギナ 白玉ツギナ櫛ツギナ 八ツギナ子ツギナ代ツギナ乃ツギナ椿ツギナ

八ツギナ尾ツギナのツギナ櫛ツギナ けツギナらツギナくツギナ櫛ツギナ

宿ツギナ多々ツギナ

家ツギナ生ツギナのツギナ宿ツギナ 浅ツギナ芽ツギナ生ツギナ乃ツギナ宿ツギナ

夕ツギナ々ツギナ乃ツギナ宿ツギナ 宇ツギナ治ツギナのツギナ中ツギナ宿ツギナ

じツギナくツギナれツギナ宿ツギナ りツギナらツギナ孫ツギナのツギナ宿ツギナ 月ツギナのツギナ宿ツギナ

花ツギナのツギナ宿ツギナ とらツギナつかツギナひツギナれツギナ宿ツギナ 軍ツギナとらツギナ宿ツギナ

春ツギナのツギナ分ツギナ

正月ツギナ 春ツギナ豆ツギナ 朝ツギナ玉ツギナ乃ツギナ年ツギナ

空ツギナ方ツギナとらツギナひツギナむツギナ んツギナりツギナこツギナつツギナみツギナ井ツギナ

つらあ 人乃日 めはじま

初子 子日 お松とく

七草^{ナナクサ} 草のくむ草

下^{シタ}草^{モウ}の草のくむ草のくむ草のくむ草

草のくむ草のくむ草のくむ草

草のくむ草のくむ草のくむ草

草のくむ草のくむ草のくむ草

雪れさるる 雪清る 雪れさるる

初まぬ 氷さるる 少とくは

氷さるる 梅まぬ 柳

雪^{ユキ}柳^{ヤナギ}

二月

ふぬあき 二月の夜^ヨ無^{ナシ}

佛^{ブツ}の刻^{ツキ} 仏のきぬ 松の花

花梅

在柳梅

三月

やよやよしよききききき

鶯ウ百千ヒトきキ少コりリ乃ノ菓カ

鳥トリれレきキきキはハりリ 雲クモ雀スズメ

白鳥シロトリのノ鶯ウ けケいイおオのノ鶯ウ

鶯ウのノ鶯ウ 鳴ナりリ 鶯ウのノ鶯ウ

鶯ウのノ鶯ウのノ鶯ウ

鶯ウ 蝶テフ 胡蝶コテフ いイちチあアいイぬヌ

いイちチあアいイぬヌ こコめメせセ わワらラあアいイぬヌ

鶯ウのノ鶯ウ のノ鶯ウ のノ鶯ウ

鶯ウのノ鶯ウ 苗コメ代ト 田イナかカらラいイぬヌ

采日サイニチ 逢日オウニチ 臘月ラツグヅ 長閑チカカ

しシらラいイぬヌ 鶯ウのノ鶯ウ 鶯ウのノ鶯ウ

卯月 亥分

夜久 トウ 木乃神 庭

葉のスギ 花 ツバキ

花 ツバキ 夜来立 ツバキ

楓 カエデ 神奈 ツバキ 柳 ヤナギ

鳥 トウ 倉のツバキ 柳 ヤナギ

水鳥 ツバキ 水鳥 ツバキ 水鳥 ツバキ

丑月

月 ツバキ 雨 梅乃由

橋 ツバキ 葛 ツバキ 蒲 ツバキ 柳 ツバキ

薬 ツバキ 草 ツバキ 女 ツバキ 白 ツバキ

竹乃子 ツバキ 竹 ツバキ 田 ツバキ 田 ツバキ

くら ツバキ 花 ツバキ と ツバキ の ツバキ 柳 ツバキ

交 ツバキ の ツバキ 柳 ツバキ 柳 ツバキ

六月

しんぞくは陸 せいのまひ 舞い

夕立 蟬 螢 蚊乃しん

のむ やま 樹母 夜ひ

いされ 持 夕ふ さいたる

さしこ 石の作 ゆり

さしこ せいのまひ 舞い

あつた せいのまひ 舞い

あつた せいのまひ 舞い

氷室のり 湯板 とも

七月 姑分

初秋 一葉おちる 袖あらし

もは 塩 あまの川 せいのまひ

あつたのり せいのまひ

七夕 かりめり 月

あはれ紅葉 ささきさし せうけき

八月

萩^{アキ} 萩^{アキ} 萩^{アキ} 女房花

尾花 さんだり くらさく

中権^{ウチケン} 志とつきれ花 すまふ景

菊の花 花の下 早稲

田守 田さ くらめり

野のしとれ 花山笑 宿のき

久多 初まりり 小毒

あはれき

九月

鴨^{カモ} 鴨^{カモ} さなりつ 鷹^{タカ}

やぬり 麻^{アサ} すらふ 碓^{ウシ}

夜つら 虫 ね虫 かいり

鈴虫 スズメ 三つ〜いふ〜いふ〜いふ

等々 蝶虫 日く〜〜く〜いふ

ほ〜いふ〜いふ 虫 もいふよむいふ

野分 ノノ ね葉ふら散 ち 橋のね葉

秋の回 アキ 霞 もそれ久はく

柳 ヤナギ ちる 梢 カサ の秋 木の葉くらら

粟 アヲ 木の葉 推 木の葉くらら

梓 ハナ のね葉 葛 クワ のね葉 葉 ハ のね葉

葉 ハ たての羽 燕 ツバメ 葉 ハ くらら葉 ハ

いふあや ちらあや すすき

うきとと ち ハム 葉 ハ くらら葉

くらら葉 ハ すすき ハ

鳴子 ナリ

十月 冬令

神月

神月

小春

木葉

落葉

りみち敷

木のうき

枯野 茶のり海

木枯風

まきさ 山田家

氷

ほら 月の霜 月の雪

鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯

霜月

霜のりの月 冬令

埋火

細代ち 神楽 庭火

十二月

冬令 年入の月 年入くれ

冬梅 妻待 三よのあり

禁中

くく 元由公 吉野元 葛田 齋子

元由公のゆく 大君 大由

大由公 元由公 大由人

元由のよ人 元由のよ人 元由のよ人

元由のよ人 元由のよ人 元由のよ人

元由のよ人 元由のよ人 元由のよ人

元由

百敷モロキ

わく二坊

勅チカク

中つりては 業乃由り 此衣

玉丸抱り 星々もふ 梅つ下

梅つ殺えふ 年下下 敷つ下

萩坪ツツホ

神祇シキ

神代宮 神法シキホ

交居 交本 交人 清山

衣庭 衣志 清戸 清池

清衣 清心 井垣 田屋タノヤ

玉垣タマキ 空垣カラキ 由小 志つ由小

志つ 由つ 志安 志つに

あどよのよそ 神樂カウラ ちり

手向タマシ めつこ 利リ

ちりい 夢乃の法華 ウラ

多井 きき孫ぬさぬうはく

水うまの神 ウマ 水く神

釈教 シヤクキョウ

佛 法 法の神 法の徒

法のる 万を シヤクキョウ 釈迦 シヤクキョウ 万り

みり ツミ 罪 トガ 科 カ 誤 モ 誤

寺 シヤ 上 ウヘ 焼 ヤク 行 ギョウ 様 サマ

万の心 山寺 万の所

万の心 ウマ 万 ウマ 極 ウマ 万 ウマ

急分

急 ウマ 万 ウマ 急 ウマ 万 ウマ

急 ウマ 万 ウマ 急 ウマ 万 ウマ

急 ウマ 万 ウマ 急 ウマ 万 ウマ

人 人 妻 人 妻

思ひ なる さま

神のおろ かのし じつた

おのまら 名は ふう

面^モ就^カ 名のふり じつた

多 なるき せ

恨^{ウレ} ことほ 神のふり せ

花香

裂傷^{ヒキ}

うしろ せいのう なるき人

あつらまら 多魚野 なるき

あての山 せはせ川 なるき

夏の夜 父のさう なるき

平一お ありれり

述懐

世

世又世

世間

好世

前世

以世

世と控

棄人

方と控

方といふ

病の方

方と親く

友の方

子と控

生死

親子老

年とけ

年とと

よらひ

病

昔

方と人

ひまら

増

方と福

あはれらむ

山歌神

山

峯

嶽

高峯 尾上

谷

入

麓

山中

畧

洞

坂

崎

山

山新用

游ユキ

滝川タキ

岩屋イワヤ

松木マツキ

仙人

岩焼イワヤキ

井用の石

海ウミ

儀ノリ

渚ナギサ

崎サキ

崎サキ

水多ミヅタカ

浦ウラ

海原ウミハラ

町チヨウ

奥ウチ

深フカイ

濱ハマ

川カハ

池イケ

溝ミヅ

溪カハ

澗マ

野ノ

水多ミヅタカ

浪ナミ

水

堰セキ

湖ウミ

堰セキ

藻モ
堰セキ

水

流ナガレ

流ナガレ

流ナガレ

水多ミヅタカ

三

三

鹽

漬物

都多

貝

梅の花貝

貝

貝

貝

貝

狗人

蓋

鶏

貝

貝

貝

貝

貝

細

鴨

貝

貝

貝

貝

貝

貝

藤

鳩

貝

貝

貝

貝

貝

貝

鰻

蟹

鱒

鮎

鱒

真分

居下分

家

庭

庭

庭

庭

九三

徳也室^カ新^カ戸^カ窓^カ

妻戸^カ門^カ恒^カ里^カ開^カ

開戸^カ竹^カ松戸^カ松^カ

橋戸^カ卯^カ宿^カ隣^カ

村^カ屋^カ水^カ簷^カす^カ

後分

解衣宿^カや^カり^カ都^カ

志^カ親^カ我^カ弟^カ弟^カ

冥^カ屋^カ母^カ舟^カ門^カ

約^カ人^カ倫^カ分^カ

人倫分

人^カ我^カ誰^カ親^カ子^カ

あ^カり^カま^カり^カ業^カ

あ^カり^カま^カり^カ賤^カ乃^カ女^カ

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨

夏

秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

春の雨
夏
秋の雨
冬

かきのみ

権ミイ
トミヨ

くさむら

ハハ

舞ナヒ
トミヨ

おのろ

はえ

かき

標マキ
トミヨ

外面

又月サツキ

又月

櫛クシ
トミヨ

若

袖のき

阿多アタ

弁ヒラ

香

ぬの

阿多

かき

かき

かき

相カキ
トミヨ

かき

しろ

橋ハシ
トミヨ

り

り

き

ゆきま

木葉 トモ さらさら ぬれ

秋のふれ

苔 コケ 子 コ ぼんぼり ハ 花 ハ びら

萩 ハギ 由 ユ 山 ヤマ 下 ノ 野 ノ

秋 アキ 草 クサ 花 ハナ 白 シロ 紫 ムラサキ うる ウ れ レ の ノ 野 ノ

蒨 セキ 花 ハナ 袖 スベテ かり カ 省 シヨウ 女 メ 子 コ たり

女 メ 鳥 トリ 花 ハナ く ク 移 ヒ り リ さ サ り リ 野 ノ 萩 ハギ 根 ネ 山 ヤマ

秋 アキ の ノ 野 ノ 夕 ユフ の ノ 野 ノ

尾 ビ 花 ハナ ち チ ぬ ヌ く ク 袖 スベテ だ ダ ぬ ヌ

あ

浅 アサ 草 カサ 省 シヨウ 白 シロ の ノ 里 リ へ ヘ ぬ ヌ

草 クサ 子 コ たり タリ 鳴 ナリ 鳥 トリ 記 キ

古

海 へりへり

麻アサ 交まじりりのの糸いと

みまきミマキ 様サマ

葛アヤ 蒲ハ 松マツ 袖スリーブ ねねのの糸いと

川カハ 杉スギ

美ミ 摩マ 小コ 糸イト のの ぬぬ

ああ ちち のの ねね のの 糸いと

新ニ 糸イト のの ねね のの 糸いと

水ミヅ 糸イト

葛クズ のの 糸いと のの 糸いと

糸イト のの ねね のの 糸いと

糸イト のの ねね のの 糸いと

くく のの 糸いと

糸イト のの ねね のの 糸いと

入イ 口カ

新さく

磁土

早

とくろがく ありあく

まは くらく

い祿子 方秋 文付 かねみ

苗 上 中 立 又 月 田子

みさく

カキ 豊原 かの 画 新 じり

菊 白 じり くらく

山 山 海

福 真 中 じり 池 大 くらく

くらく

はく じり 筆 花 下 水

すま じり 書 巻

すま じり 書 巻 くらく じり

早

夕ゆふ不ふ夏なつ車くるまたううれれ時とき
ああらららら屋や

ひひららららゆゆららくくくく

福ふくすすりりたたままぬぬ 望もちききしし時とき

ああににぬぬとと 山やま一ひと葉は

ささしし竹たけ 大おほ人ひと 世よ中ちゆう 女め

くくれれ竹たけ けけいい 矣や 世よ中ちゆう 山やま 一ひと 葉は

七夕せつたつ 一ひと 葉は ちちららららりり 山やま 一ひと 葉は のの 橋はし

ああらららららら

嶽たけ 伊い約やく 富士ふじ 山やま 伊い吹ふ山やま

音ね 伊い子こ 伊い約やく 富士ふじ

伊い子こ 伊い子こ

早はや 花はな 梅花ばいげ 菊花きくげ ああららつつきき

花はな 露つゆ 都みやこ 華はな

早はや

存^リ祿大^ニ由^ル山

富士^ノ中^ニ空^クき^ニ山^ノ多^クあり

時^ノくぬ雪^ノ田^ノ子の^ノ

幸^ニ山^ノ富士^ノ雪^ノ河^ノの松原

思^ハぬ名^ノ清^ク葛^ノ葉^ノ洗^ハ来^ル

嵐^ノ山^ノ曉^ニ識^カく^ニ寺^ノ教^ノの^ノり

在^リ的^ナの^ノ月

常^ニお梅^ノ所^ノ遊^ル谷

百^モ舌^ガを^シる^トも^ハ草^ノと^シき^ニ君^ノの^ノり

オモシロ

い^ハら^ハあ^ハは^ハ野^ノあ^ハら^ハの^ノ山

こ^ノの^ノけ^ノあ^ハは

あ^ハら^ハの^ノ野^ノあ^ハら^ハ

山^ノ雀^ガら^ハく^ニら^ハり^ニら^ハい^ハれ^ハ也

くまーか

^{ラツキ}鶺鴒ま 床ゆら 小鶺鴒タカ かし

^{キキ}鶺鴒ま 田い 秋乃夕暮

海うみ

^{ヒト}鶺鴒ま 鶺鴒ま のなる

^{カキ}鳥ま 市

うれ

^鬼鬼ま 谷一由花うれえ

^{ツドリ}鶺鴒ま けーくものうれ

^{鶺鴒}鶺鴒ま 田い 鶺鴒ま

^山山ま 鳥ま 田い 鶺鴒ま

おろ

^{サキ}鶺鴒ま 田い 鶺鴒ま

神かみ

鶴ツルの井い ちまう 林

福フクの ちまう 子この思しふ

鶴ツルの ちまう 塩しほのちまう

あし人

存ゾクの ちまう ちまう ちまう

ちまう

ちまう 思しの 福フクの ちまう 破やぶ

ちまう ちまう ちまう ちまう

難カタ波ハのちまう

鴨カモの ちまう ちまう ちまう

ちまう ちまう ちまう

ちまう

ちまう ちまう ちまう

秋の露あきのうらみ 秋のうらみ
あしをぬきぬき 元々

小夜子のうらみ
露つゆのうらみ

だるまのうらみ
うらみ

麻あしの子こ 量りょうす なる

麻あしのうらみ 田のうらみ

猪いののうらみ 田のうらみ

さるのうらみ なる野のうらみ

犬いぬのうらみ 田のうらみ

狐きつねのうらみ 田のうらみ

ひまのうらみ 田のうらみ

せうら

虎トラ 石イシ かり々カキカキ 園ニ 今イマ はハ 竹タケ

羊ヒツジ 下シタ の花ハナ 河カハ のノ 木キ ちチ うウ

豹ヒョウ 毛モウ ぐグ 毛モウ ぐグ 雪ユキ 河カハ 木キ ちチ うウ

のノ 中ナカ

牛ウシ 由ユ のノ 橋ハシ 車クルマ 引ヒキ 野ノ 乙ヲ

洗シ のノ 洗シ 塔ツタ

親オヤ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ 糸イト

親オヤ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ

射イ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ 糸イト

玉タマ つツ き

朝アサ 雲クモ 梅ウメ 山ヤマ のノ 木キ ちチ うウ

點アユ 山ヤマ のノ 木キ ちチ うウ 玉タマ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ

解カ 山ヤマ のノ 木キ ちチ うウ 玉タマ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ

たタ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ 玉タマ 洗シ のノ 洗シ 塔ツタ

大井河 月乃入

松尾 嵐山 非 子代

大井河 舟 草 紅紫

本義

桂河 樹津 穴里 穴を打す

く 鹿

清次 遊 櫓

大比 穀 横川 寺 され 乃

横川 杖 三 ば 寺

浅 杖 少 車 舟 後 の

多 杖 杖 乃 山 田 石 乃 糸

伏 見 深 草 の 里 田 井

深 草 山 乃 橋 山 志 乃 り ず 深

本 幡 伏 見

宇治ウヂ 浮舟ウヅフネ 我唐ワカ 都ツ 都ツ 都ツ

春日カスガ 春日カスガ 春日カスガ 春日カスガ

春日カスガ 春日カスガ 春日カスガ 春日カスガ

長谷ハセ 寺テ 鐘カネ 松マツ 松マツ 松マツ

立田タタ 紅葉カキ 鶏トリ 三ミ 室ムロ 入イ 也ヤ

奥津ウキツ 奥津ウキツ 奥津ウキツ

三ミ 室ムロ 三ミ 室ムロ 三ミ 室ムロ

三ミ 梅ウメ 秋アキ 秋アキ 秋アキ 秋アキ

布フ 布フ 布フ 布フ 布フ 布フ

十ト 市イチ 市イチ 市イチ 市イチ 市イチ

葛城山カヅラギ 葛城山カヅラギ 葛城山カヅラギ 葛城山カヅラギ

岩イワ 岩イワ 岩イワ 岩イワ

寺テ 寺テ 寺テ 寺テ 寺テ 寺テ

寺テ 寺テ 寺テ 寺テ 寺テ 寺テ

吉野よしの 花梅はなうめ 澁しぶ 糸いと のみさげ

りあし

志し 賀が 入い り 都みやこ。一ツ松いつまつ 冬ふゆ こ

雅みやび 波なみ 寺てら 中なか 長なが の濱はま 都みやこ

梅江

臣おみ 吉よ 祐すけ さし 松まつ 久ひさ 久ひさ

君きみ 代しろ

深ふか 磨がら 都みやこ 波なみ の 中なか まま 松まつ

わらわれ梅

的あて 石いし 月つき 異い 業わざ 好この 戸と 名な

音ね 庫くら 万よろず の 室むろ い じ 氏うぢ 山やま 海うみ

西にし 文ぶん 多おほ の 月つき の 入い 三さん 年ねん に 出い ぬ

飛と 鳥とり 川がは 水みづ じ 川がは 水みづ の 海うみ

からせよさう

この用鳥のあつさう 水方浦 吹上フキ

水方浦 塩くらねえ入めし魚

妹嫁川 多れては吉野山中にあり

相坂の突マサカ 松 弱 走升

ろくろ突ロクロカハ わのまはたお飯

白河突シラカハ 林風そく 妻友ひる

不破突フナキ 板屋イタヤ 蒸シめー ちらち

立田突タテタ 鶏トリ しみち

鈴麻突スズマカ ちりさけき 六 神海山

次広突カスミノヤキ 都ミヤコ 野ノ ちり山

霞用カスミノヤキ じり燈シロチ ちり山

りりろ祿の井

清身キヨの突ツ 寺テ 障サウ ちり山 ちり山 ちり山

手間突テマ 八ヤチ ちり山 ちり山 ちり山

商人付白

ほ他者宗祇也

車のみまうよき〜ゆりさ

人れうろる場の目ぢり付いて 宗初

ひま人のうい文王公房とえて車

の右よのまそゆりぬり〜車たり

付りか右^{ウキ}迹のる場の目ぢりぬ車に

そりのまりゆ^テ布^イひの家とほきん

とそる場とそり車ハ物入車まり

後右^{ウキ}迹のる場の目ぢりぬ日じりい

よそは女車とそり女とそあつひ

と葉卒の〜ふ〜りて物見

車よらまりりま〜り何人様はく

みりもゆゆいの大車とるを何い

て〜りらひ〜り〜り〜り

神妙の事あり

くまもあつめ人そつていれ

我とみかじほの月のまをて

そとあは回文とて替のえ物と

りせ一何然とあすり白然とあ

と賢人^トとえ候よ一とこしあひ

て大ととそ一妙也然と大月の福

とよ物かりとれとてあ月福を

我とみかじほの月のまをて

りせ一何然とあすり白然とあ

と賢人^トとえ候よ一とこしあひ

て大ととそ一妙也然と大月の福

とよ物かりとれとてあ月福を

いぬらこ

柳とて人とのあきうや乃無後乃
 事に元をせうもして卒として後
 六つ秋の會とてよよく付ゆらよ
 や源氏物語のやとは難句の時大
 切也方の難句の時よたも一也
 ともよよくして何とてかや
 くらもは物語の中さういふ
 柳の移りしのはかたに

ともあつ矢のいふさうに
 かくとてさういふをせり万葉の
 ちよみさうれわりの時れと終り
 うれらうと云事とていふも人も
 屋とていふもさういふも
 とていふもさういふも

光るすゝらふなうらひの何よきも矢
取ど思入しての後やのしからぬらよと
とほくわうしむはあひまかつひんたむ
ゆる

しほのあつ月よのうらうらむ
とんぶらうあつらひにんあなむ(Comes)

ひ秋の月とに張る舞月南胸を
らうのうらうえうらむの半下のあせ
感えを極ふらう

秋のねらひのあつらうらむ

葉そとれくらまはれ半のあつらむ
は朽木と云あつらむあつらむ
葉のあつて葉のあつらむ
とつらむあつらむ

くさくさ〜とて 寒くもなれぬ こと

衆の心も 同様に 寒くもなれぬ

衆の心も 同様に 寒くもなれぬ こと

大いなる 心も 同様に 寒くもなれぬ こと

の心も 同様に 寒くもなれぬ こと

衆の心も 同様に 寒くもなれぬ こと

ひたひたに 寒くもなれぬ こと

すはすはの 心も 同様に 寒くもなれぬ こと

見せぬ 心も 同様に 寒くもなれぬ こと

とて 寒くもなれぬ こと

あてそ 心も 同様に 寒くもなれぬ こと

風極る 心も 同様に 寒くもなれぬ こと

乞ひ 衆の心も 同様に 寒くもなれぬ こと

も 風も 同様に 寒くもなれぬ こと

かたがは

風もカサひたひたの梅とあはれ
月んとカサひたひたの梅とあはれ
ありそとカサひたひたの梅とあはれ

福のつゝあ乃あつらうも

くれ竹のこたゝたあを今とあはれ

は異行カサのつゝあ乃あつらうも

也あつらうのつゝあ乃あつらうも
えりあつらうのつゝあ乃あつらうも

あひもあつらうのつゝあ乃あつらうも

後カサのつゝあ乃あつらうも

まカサのつゝあ乃あつらうも

のカサのつゝあ乃あつらうも

ころカサのつゝあ乃あつらうも

のカサのつゝあ乃あつらうも

老乃ねはくくももせうてき
おのる母もあつるむらせはつり
し度母もあつるむらせはつり
あつるむらせはつり
す

はくくももせうてき

あつるむらせはつり

はくくももせうてき

あつるむらせはつり

はくくももせうてき

あつるむらせはつり

はくくももせうてき

あつるむらせはつり

はくくももせうてき

さゆなり

まればる中にいそいで

人よき一後より花よはあはれて

花の幸に梅も物され又あひみり

と只とわらうめでたき心よ

それまればる花よはあはれて

人よかたはらふらふ

花とづかしく新枕もなほ

づあうらも

今こゝむもそとたのむ面鏡フエカサ

わすれぬ人の面もあはれ月も

いづれ月よる人よきと

こそとサキあはれ人よきと

あはれ月よる人よきと

えんまそと覚むび人の面影ラモカサのそあり
て人のここのこ。後アトもひまじいかに其の
ゆここの月のこせうつここのもよもよ
に名惟もやキ分カがさキもさキうキ。初ハツ心のた
めよのこカキ虫カキ付カキるカキもよカキはカキひカキかカキんカキひカキ人
そかあるんこふこうゆひめ
人かゆここのかよもたぬくか

孫あり其のじりにいこ。後アトのうさそ 宗ムネ刻
のこゆうなよそ人どありみかちうキき。
うつにどかんよ後れはあいら獨ひとり的てきいま
たねからここのいあいらここのゆここのあめ時
のこゆここのあめの中れ人ここのたぬくここのい
つこの人よここのいよここのいよここのいよここのい
人のこま也

月すこわたり松風を

人々落るるきく夏受て 書

心なよあふ人とみりおめがさねた
うらぐれてふんふんくしてざらうが

めめよいび人の落とみ被りては

月すこわたり松風をうらぐり

人々落るるめめ被り物浴は月

月のこもくくして夏の夕らとせ

す。みまうこくく回まうらしてぞく

のこもくくあつれよいものうらな

つらもむもつらくくくつら也他

そいそやつらくくくつらや

うらくくくつらくくくつら

よ面白くくつらくくくつら

あな

④いふに... 我...
た... 思
切格チウキョウ...
の付格キョウ...

... 思...
... 思...

は... 八歳ヤチ... 万葉マンヤク...

也... 年...

... 格キョウ... 年...

... 源氏ゲンジ... 伊勢イセ...

... 也

... 也

... 也

の来子様^{タビ}福^{タビ}してかへるにやいぬお梅
秋風^{アキカゼ}の物^{モノ}もさへはかたしにさへい
ひの月^{ツキ}さへく^く程思^{オモ}信^シて候^{ウケ}る
ふら^{ふら}の^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
大^{オホ}の^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
池^{イケ}の^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
後^{ノチ}の^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
心^{ココロ}教^{ノチ}

は白^{シロ}の^の甘^{アミ}梅^{ウメ}の^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
池^{イケ}と^とま^まの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
池^{イケ}と^とま^まの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
り^りの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
外^{ソト}は^は面^{オモ}鏡^{カガミ}の^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ
真^{マコト}して^{して}みる^{みる}に^にも^も
か^から^らの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザの^の御^ミ座^ザ

114

あるものもいふ事だかのふらふらも
いふ世といふ事だかあつらひの事だ
世の外れはつらといふ事だあつれ
山のおくといふ事だあつらひの事
後世佛種從縁起エニキの事だ
うまうてゐるよりの事だあつれ
あつれ下はあつれあつれ
の教

前句の白古の事だあつれあつれ
せり世間あつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ
てあつれあつれあつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ
あつれあつれあつれあつれあつれ

七十一

まさき方のまつまう浪の中へきん
その浪の上れこの方とてカサ多難みら
てねとつらこてきすまわう死みとこ
ゆんこつら也かると海松うけき
くゆりく可難もや

又たるに海よりと車

よるひるまといけにあり
初助

物光れむい車上一葉と照ととあり
ろくがしう車一葉かまうと車
とまふとて物光の玉とねうあり
物光の力ありへたれいまう入る也
物光とをつら人つらうか
山賊と我ら物光のすことと 殺
まへむらいた海せむらむらとめいり

山賊

早も 悔きとむくくくくくくくくくく
とぬいふくくくくくくくくくくくくくく
りかかきくく

あしうくくくくくくくくくくく

あらしうくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
りくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく
らりあ^三くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく
心教

くくくくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくく

たきこびこころをいかに憐れん 心敬

我方のこころすすむまわれあつたよとまきく
るる人ときこまき人をも又友よ^{トモ}友^{トモ}と
めぬおされい^カ我名と^カ我名と^カこころと
ておびしんととり

我方より似たり老のあつれさ

久きよとこころをいかにいかに

前^マの我より似たり他人の老の事也付極ハ
我方より似たりといふれま也方^カに極^マり
も^カみ^カの^カ物^カ也^カい^カま^カよ^カん^カね^カた^カれ
も^カよ^カら^カま^カる^カと^カり^カし^カじ^カ也^カ
こ^カれ^カ乃^カら^カこ^カら^カし^カゆ^カよ^カし^カを^カま^カり
ま^カせ^カく^カ都^カり^カす^カれ^カぬ^カ毒^カの^カ毒^カ
た^カこ^カ人^カの^カこ^カら^カし^カは^カ世^カの^カの^カれ^カて^カ又^カま^カり

昔^{△カレ}より申へある事一に申にやうは

もそらるるの事一に申にやうは

の事^{ニヤ}一すもゆり一^品に申にやうは

に申にやうは一も^品材のあられ

も又の朋友の事一に申にやうは

あさ^品の事一に申にやうは

ても申にやうは一に申にやうは

よ^品信^品の事一に申にやうは

申にやうは一に申にやうは

一に申にやうは一に申にやうは

只^{ニヤ}に申にやうは一に申にやうは

ぬ^品一

又^品に申にやうは

し^品に申にやうは

宗柳

爰にのち人へ解く沈吟してさうり

りや

しこれの忍乃露を力ありじ

虫の多く世へのまよふまよふと 敬

いかにくくくつるまよふの所ぬれたよめ

の露れりありじゆせられ ユスハ ちるまよふ

れぬぬのれぬゆにそちぬ ユスハ 指のま付比

露のさ野へま虫のまいさるおこし

よかまじららす ユスハ ち

今くくぬいしめ ユスハ ぬれ秋

虫のまにまじら ユスハ ちと成てま砌

いまのま ユスハ ちと成て万物くま

ま ユスハ ちと成てま ユスハ ちと成て

ま ユスハ ちと成て

きしく火志あられ八月にあげり

まうりくじ秋分らうとうふ氣に豊藏

とく火に庭火のゆ也甚虫に神果のこ

ひの名也神果大内とてまの十二月

船河の神果はゆいまうぬキ也ある

秋され甚虫といふよつとて秋のう

とらうたもの

きしくらうまふあきふあとし

こ解れ迄をね海の持らう 教

こまを押らうといふ妻にまののみすと

あまのこられこふ引るれこらり

ていふまをあげて死をしあふはと

まよむむ白れ付持に丸をーたあり

ましくらうのさくも大勢にいまの

大野と云取付きハそハ勿^キ痛^クの事也
志^スふ^カおも^カと^カ親^カと^カハ^カ所^カ取^カ付^カ乃^カ付
取^カ付^カと^カ取^カ付^カと^カお^カ母^カの^カと^カ乃^カ取^カ付^カと
麻^カ乃^カ取^カ付^カと^カ志^カふ^カ依^カ也^カ物^カと^カ別^カ子
取^カ付^カす^カ母^カハ^カす^カ一^カと^カ取^カ付^カぬ^カ事^カ付^カり
よ^カう^カ一^カと^カ取^カ付^カる^カの^カ句^カと^カお^カも^カい
ん^カら^カし^カい^カに^カと^カと

か^カい^カれ^カか^カり^カ取^カ付^カぬ^カ事^カ付^カり
父^カ月^カ取^カ付^カの^カと^カ取^カ付^カる^カ行^カや^カ心^カ結^カ付^カ
そ^カハ^カ惟^カる^カの^カ取^カ付^カり^カて^カ三^カ月^カ十^カ日
の^カ比^カと^カ取^カ付^カる^カて^カ母^カの^カ取^カ付^カる^カ
に^カ取^カ付^カり^カ入^カ取^カ付^カる^カ人^カと^カす^カす^カら^カ母^カ
葉^カ年^カ。あ^カら^カう^カに^カ取^カ付^カる^カ三^カ月^カの^カ取^カ付^カ
向^カハ^カら^カの^カ取^カ付^カる^カて^カ入^カ取^カ付^カる^カ人^カと^カす^カす^カら^カ母^カ

よみ^ハ御^ツ書^マの^シま^ハく^ハ御^シい
ら^ハく^ハ傍^ニも^ハの^シ考^ハと^ハなり^ハ地^ノ者
の^シあ^ハり^ハか^ハい^ハの^シか^ハつ^ハと^ハあ^ハり^ハぬ
と^ハい^ハれ^ハく^ハ書^クを^ハい^ハに^ハ傍^ニに^ハあ^ハり^ハぬ
あ^ハり^ハと^ハ月^ノに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハて
か^ハい^ハと^ハい^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
は^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ

あ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
月^ノに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
い^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
句^ノの^シあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
あ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
よ^ハみ^ハ月^ノに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ
又^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ^ハい^ハに^ハあ^ハり^ハぬ

ハカ

の事もなれどなれど筆をいあらそ
い。目もなれどなれど筆をいあらそ
付く事なれどなれど筆をいあらそ
一。目もなれどなれど筆をいあらそ
見こしりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ
我をこしりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ
はらわれ月のはくよあふ人 多れ

光のこしりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ
いほこしりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ
そなりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ
ゆれこしりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ
りれ月のはくよあふ人 多れ
うれそ我もなれどなれど筆をいあらそ
みゆこしりそ然^{ニユ}筆^{ニユ}をいあらそ

あはれ

あはれなる心

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれなる心 社

あはれ

の秋をまきて、この句をすゑとらるゝ
又あまの甘り句も、ニ合合へくすゑとて
とぞおられとまふ移カニひとくはつと
くれく句れいげとまふくもいせ

右一冊者宗祇法師私傳
之書也僕写之令新刊者有之
寛見永二十一曆八月吉日 勝共傳

勤クモノヲ用ト云

新注
誦名評

